

第 38 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

奨励賞（賞金 30 万円）

「対話的構築主義によるジャーナリズムの戦争証言インタビューの再検討 ～NHK 戦争証言アーカイブスを事例として～」

（日本社会学会，社会学評論 72 巻 3 号，2021 年 12 月）

佐藤 信吾 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士課程 3 年

本論文は、NHK が公開している「戦争証言アーカイブス」にある 2 つの証言を分析することで、戦争証言を「聞き手＝ジャーナリスト」の構図でとらえる重要性を確認し、その視点から分析を積み上げる必要性を指摘する。情報通信というよりジャーナリズムの研究だが、インターネットによって可能になった戦争体験者の証言のアーカイブス化に着目し、その学術利用の可能性を示した点で、ドキュメンタリー研究への学術的貢献は大きい。

奨励賞（賞金 30 万円）

「オンライン脱抑制：構成概念の再考と新たなモデルの提案」

（心理学評論刊行会，心理学評論第 65 号，2022 年 10 月）

温 若寒 大阪大学大学院人間科学研究科 博士後期課程 1 年
三浦 麻子 大阪大学大学院人間科学研究科 教授

本論文では、リアルの世界においてはある程度働いていると認められる心理的な「抑制効果」がオンラインの世界では必ずしも効かなくなること、すなわち「オンライン脱抑制」について関連文献を丁寧にレビューした上で、それを「心的状態」と見なし、内的動機と外的要因が行動につながるパスを調整するものであるという視点は評価できる。筆者が提唱している「動機付け・オンライン脱抑制モデル（MOD モデル）」の有効性、さらには社会的な応用可能性については今後の課題である。